

世界遺産登録による都市の変容 —富岡製糸場を事例として—

土屋ゼミナール

中嶋・安部・伊澤・小川・小寺・川上・岸・櫻井・島田・竹村・三澤

4つの調査とその結果

1, 先行研究調査

- 1872年 富岡製糸場が開設される
- 1987年 富岡製糸場が役割を終え、115年の歴史に幕を下ろす
- 2014年 世界遺産登録



世界遺産登録作業と世界遺産を活かした町づくり

- ・富岡製糸場の世界遺産登録活動が活発にならると同時に、製糸場に対する認識も深まっていった
- ・世界遺産登録の候補、決定と進んでいくにつれて富岡市への観光客が急激に増えた
- ・この環境の変化を利用した商売活動の活発化
- ・美しい街並みにしてもてなす

•構成資産の編成

構成資産とは、世界遺産の価値を具体的に証明できるものとして選ばれた文化財
富岡製糸場の構成資産として大きな越屋根をもつ養蚕農家、高山社跡、荒船風穴が選ばれている

・バッファゾーン

バッファゾーンとは、世界遺産の立地する地域の景観をはじめとする人文、自然環境を守るために、世界遺産の周囲に設定する規制区域

普遍的な価値をもつ世界遺産としての証明にもなる

•参考文献・引用先

富岡製糸場の遺産を活かしたまちづくりとその課題

富岡製糸場と絹産業遺産群 今井幹夫編著

https://th.bing.com/th/id/R.4e2a06a92122c4d9b20dde3a9ce32f4b?rik=w7HpRo2zEIFQMQ&riu=http%3a%2f%2fimg.guide.travel.co.jp%2farticle%2f143%2f20140430224708%2f6B0A4C74E98C4F24A7B89772F868C04A_L.jpg&ehk=Cl8A5wVpWDr9WC%2bOb%2bVsJGwEhHOHneQEKM1wqR%2bkNWU%3d&risl=&pid=ImgRaw&r=0

https://th.bing.com/th/id/R.95f4871e6ae87ab85aaff53b03c4ed01?rik=sG%2brmRwAUr0e%2bg&riu=http%3a%2f%2fwww.city.isesaki.lg.jp%2fmaterial%2fimages%2fgroup%2f96%2f130304170451_0.jpg&ehk=brw7hswFkGqPGw04j%2f1tO4kCec50nDOTj%2fmNT0Wf88M%3d&risl=&pid=ImgRaw&r=0

<https://s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/production.guidoor.jp/images/OEJT6Ty3yCmtkBjoBJIMTmY1hluBYSOKWqk28k9K.jpeg>

<https://info.nihon-kankou.or.jp/dbmente/info/photo/L/10/382/10382af2172097446001.jpg>



「田島弥平旧宅」伊勢崎市



「高山社跡」藤岡市



「荒船風穴」下仁田町

2, 富岡市近現代町並みの歴史調査

•富岡近代史

富岡市は製糸場以外の魅力も発信しようと歴史的資産を活用した街づくりに力を入れている。

製糸場に通じる路線の町並みを明治・大正時代の雰囲気統一している。また、都市基盤の整備によって安全で災害に強い街を作り、欧州のように何百年も残る街並みを作ることを目的としている。実際に行っていることとして、観光ゾーンには駐車場を設けていない。観光客が街中を通るように仕向け、市街地全体をもり立てることを目的としているからである。また、旧市街に残っている蔵造りなどの古い建物を移し、ミニ博物館や物産展として活用していく。これは建物の老朽化で空き地になったり、更地になったりすることを防ぐことができる。



地域連携活動発表会

2022

3, 観光関連団体調査

富岡市は、富岡市景観形成ガイドラインを設定し、「にぎわいの風景」「農のある風景」「住まいの風景」と3つの類型に分けてガイドラインがある。なかでも富岡製糸場を含む「にぎわいの風景」ではまちなかに様々な風景資源があり、うまく活用していないことで魅力が発揮されていない現状があるため、有効的に活用することで風景を創造することを目指している。

例としては、

- ・歴史的建造物や蔵を活用する
 - ・縦格子などの和風のデザインを参考にする
 - ・家並みや庇、堀や生垣をそろえて街並みに連続性を出す
 - ・屋根や外壁に自然素材（和瓦や茶系の木材など）を使い、落ち着いた色とする
 - ・見通しに配慮した街並みをつくる
- などが挙げられる。



◆富岡市観光協会へのインタビューで、同協会代表のOさんは

「富岡市は、富岡製糸場が世界遺産に認定されたときに観光地化が急激に進んでいる。そのため、富岡市や富岡製糸場の受け入れ態勢が整っていなかった。しかし現在では、富岡市の活性化のために富岡市観光協会が、市内の店舗や富岡市役所などと連携を取り、富岡製糸場の来場者を増やすために、受け入れ態勢を整えている」と答えている。

参考文献

- ・富岡風景づくりガイド [tomioka_hukeidukuri_guide.pdf](https://tomioka-hukeidukuri-guide.pdf) 2022/10/12
- ・富岡市観光協会 [しるくるとみおか 富岡市観光ホームページ \(tomioka-silk.jp\)](https://tomioka-silk.jp) 2022/10/12

4, 富岡市役所インタビュー

- ・初年度は観光客に恵まれたものの、直後のコロナ災禍や地域アクセスの問題、上信電鉄の赤字にも悩まされている。減少した観光客を増やすために市役所の方では見学しやすい形への整備を進めている。
- ・開発途中に世界遺産登録→登録後開発計画の中断と現状の維持が必須となり、開発そのものが中断になった。
- ・そのため歪んだ十字路が残されている地域も存在している。
- ・市役所では双方の合意の上で登録制度を用いており、登録された建物はその保存を保證する代わりに資金面の保証がある。
- ・富岡製糸場は近代遺産と呼ばれる、今までの世界遺産と比べて保存方法が特殊になっている。
- ・街の景観保存のために行われている登録制度は市の審査が必要になってくる。



5, 地域住民インタビュー

Iさん.観光客について→「とにかくおもてなしをしなければならない。」ということとなった。その昔にどの人がどのような生活を営んでいたのか、など地図に載っていない情報を手書き、手作りの看板、プラカードを作ったりし始めた。ゴミとかのトラブルはいうほどない。が、生活道路の占有があり、ストレスが溜まった。店を開けるときに挨拶をしても無視される時のストレスがすごかった。コロナ禍に直面し、人がいない状況が生まれたとき、「やっと元の街並みに戻った」と正直安堵している。

【まとめ】

富岡製糸場が世界遺産登録されることで、富岡市旧市街地の観光地化が進んだ。観光協会や地元自治体、地元住民は積極的に観光客を「おもてなす」ことに注力し、新たなまちづくりに期待を寄せた。旧市街地全体が観光都市としての変容を遂げる一方、それ自体が地元住民にとって新たな「ストレス」を生じさせ、道路整備は利便性確保と景観保護との間で調整を余儀なくされるなど、負の側面も生み出した。本研究では、正負両面にわたり影響を及ぼす「世界遺産登録による観光資源化」の実態を把握した。この成果は、今後世界遺産登録を目指す都市にとって、観光資源化による都市の変容についての議論に一石を投じるものである。

